

(参考様式 5)

事業活用活性化計画目標等評価報告書

作成日：令和 3 年 9 月 2 4 日

ふりがな	かつやましかつせいかけいかく
活性化計画名	勝山市活性化計画
ふりがな	かつやまし
計画主体名	勝山市
計画期間	平成 2 9 年度～令和 3 年度
事業実施期間	平成 2 9 年度～令和元年度
活性化計画区域	市の用途地域を除く全域

1 事業活用活性化計画目標の評価等

(1) 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値 A	実績値 B	達成率(%) $C = B / A$	備考
交流人口の増加 (施設往来者数)	6,900 人 /3 年間	306,255 人	4438.4%	令和 2 年度末時点
雇用者の増加 (新規常時雇用者数)	3 人 /3 年間	5 人	166.6%	令和 2 年度末時点

(コメント)

農産物直売所および親水空間等の体験施設の整備をすることにより交流人口の増加を図ったが、コロナ禍による「近隣への小旅行」のニーズも影響した為、大幅に交流人口の目標を達成することができた。

また、施設利用者が想定以上に多かったこともあり、施設を管理する為の雇用者の増員も必要となり、目標値を超えることとなった。

(2) 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	①地域連携販売力強化施設 ②地域資源活用交流促進施設 ③農林水産物処理加工施設 ④農林漁業・農山漁村体験施設	
事業内容及び事業量	①農林水産物直売所(1式)231.6m ² ②農家レストラン(1棟)132.2m ² ③処理加工設備(1式)35.2m ² ④親水空間整備工・親水護岸整備工	
事業実施主体	勝山市	
管理主体	勝山市	
事業着手年度	事業竣工年度	供用開始日
平成29年度	令和2年度	令和2年6月20日
事業の効果	【施設利用】(新規施設のため皆増) ※R2年度末時点 ○施設利用者: 306, 255人 ○直売場利用者: 68, 349人 ○販売登録農家: 154人 ○雇用者数: 正職員5人、パート2人 【イベント等】 ○恐竜マルシェ事業 R2/11/21～11/29 勝山市の農林水産特産物をPR 来場者数: 延べ人691人 ○農産物等販売促進事業 R3/2/24～3/14 野菜の販売促進会および地元六次化団体による出店 来場者数: 延べ1445人 【営農状況】(H28年度末→R2年度末) ○農地作付け面積 1,713 ha → 1,697 ha (-16ha) ○園芸取組面積 633 ha → 656 ha (+23ha) ○農業法人 17 法人 → 20 法人(+3 法人) ※当初の目標値としていた施設利用を契機とした交流 人口の増加だけでなく、人口減少が進む中でありな がらも出荷農家による園芸農業の推進につながった。	

(3) 総合評価及び今後の方針

(コメント)

活性化計画に基づいた事業実施の結果、交流人口増加の実績値は目標値の44倍と大きく上回った。また、雇用者の増員も必要となり、こちらの実績値も目標値の1.6倍と上回っている。コロナ禍による近隣への観光ニーズが増えたのが要因と考えられるが、今後もアフターコロナおよび北陸新幹線の県内整備完了を見据えて、さらなる体制強化をしていく。

また、計画段階より農産物直売所へ園芸作物の出荷者を増加するべく周知や支援等を行ってきたが、人口減少により作付け面積が減っているにも関わらず、園芸作物の取組面積は増加し、農業法人も新規に立ち上がり法人数が増加した。今後は法人等への集約等を図り、農家が儲かる農業への転換を図っていききたい。

(4) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 公益財団法人 勝山市農業公社	(氏名) 事務局長 丸山真寿
(コメント)		
コロナ禍でありながらも交流人口は明らかに増加しており、雇用の確保についても目標値以上に増員することができた為、十分に事業による効果が表れていると判断される。また、農産物直売所への出荷農家を募集するにあたり、市内農家に対して広く園芸転換を図っていた効果もあり、園芸取組面積の増加も確認できた。今後もさらなる園芸作物への転換を推進し農家の所得が向上する事を期待する。		

2 活性化計画の目標の評価等

(1) 活性化計画の目標の達成状況

活性化計画の 目標及び達成度	目標	農林水産物の販売等の拡大を図るための取組として販売・農林水産業の体験を実施するための施設を整備し、地域間交流・地域の活性化を図る。具体的には、施設に訪れる観光客等の交流人口の増加、雇用の創出を図る。 ①交流人口の増加（施設往来者数） ②雇用者の増加（新規常時雇用者数）		
		目標値 A	実績値 B	達成率 $C = B / A$
	①6,900人/3年間		①306,255人	①4438.4%
	② 3人/3年間		② 5人	② 166.6%

(2) 今後の方針

(コメント)

コロナ禍でありながらも、近隣からの観光客により十分に効果が認められた。今後もアフターコロナおよび北陸新幹線の県内整備完了を見据えて、さらなる体制強化をしていく。

また、事業の付属効果として、園芸作物の取組面積の増加、農業法人の増加も確認できた。今後は法人等への集約等を図り、農家が儲かる農業への転換を図っていきたい。

(3) 第三者の意見

第三評価者	(所属) 公益財団法人 勝山市農業公社	(氏名) 事務局長 丸山真寿
(コメント) コロナ禍でありながらも交流人口は明らかに増加しており、雇用の確保についても目標値以上に増員することができた為、十分に事業による効果が表れていると判断される。また、農産物直売所への出荷農家を募集するにあたり、市内農家に対して広く園芸転換を図っていた効果もあり、園芸取組面積の増加も確認できた。今後もさらなる園芸作物への転換を推進し農家の所得が向上する事を期待する。		